

市政モニター調査結果報告

テーマ

中心部商店街に関する市民意識調査

令和元年 8 月

経済局産業政策部地域産業支援課

I 調査概要

○目的

仙台市にとって、中心部商店街は重要な経済資源であるとともに、本市の顔であり、東北地方全体をけん引する集客・交流の基盤となっている。

しかしながら、社会情勢の変化や消費者のニーズも多様化してきており、今後、中心市街地の状況は大きく変貌していくことが予想される。

そこで、中心部商店街に対する市民の皆様の動向や意識などを伺い、今後の施策における基礎的資料として活用するために調査を行った。

※中心部商店街：一番町四丁目、一番町一番街、サンモール一番町、おおまち、クリスロード、名掛丁、仙台駅前、仙台朝市、本町の各商店街

○対象

市政モニター

○期間

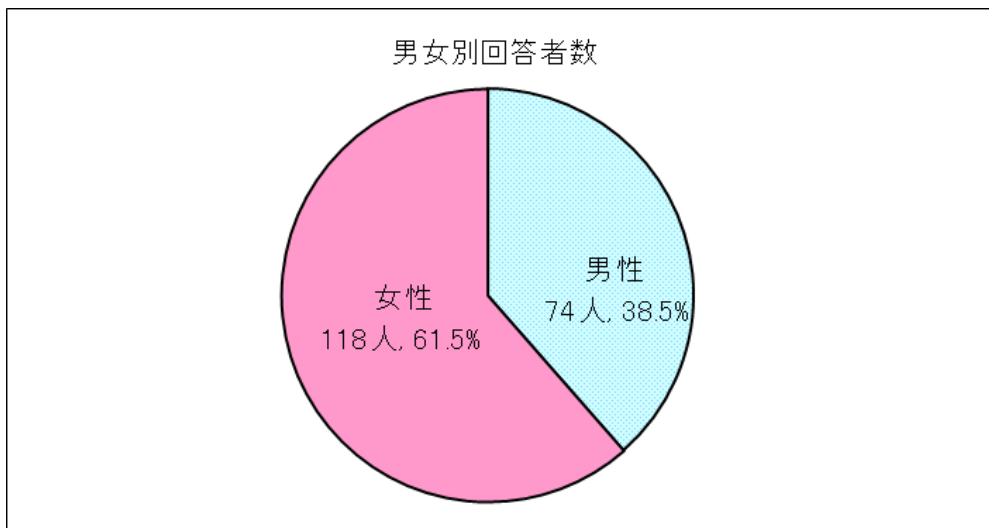
令和元年6月18日～令和元年7月3日（16日間）

○調査方法及び回答者数

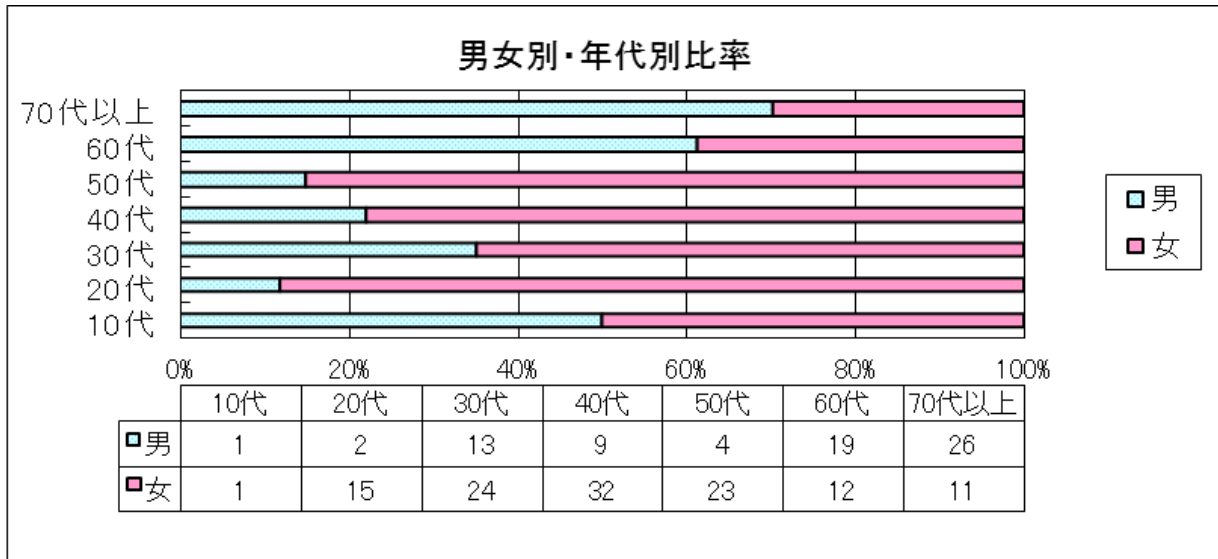
区分（調査方法）	郵送	インターネット	計
対象者数	108人	92人	200人
回答者数（有効回答数）	107人	85人	192人
回答率（有効回答率）	99.0%	92.4%	96.0%

○回答者の属性

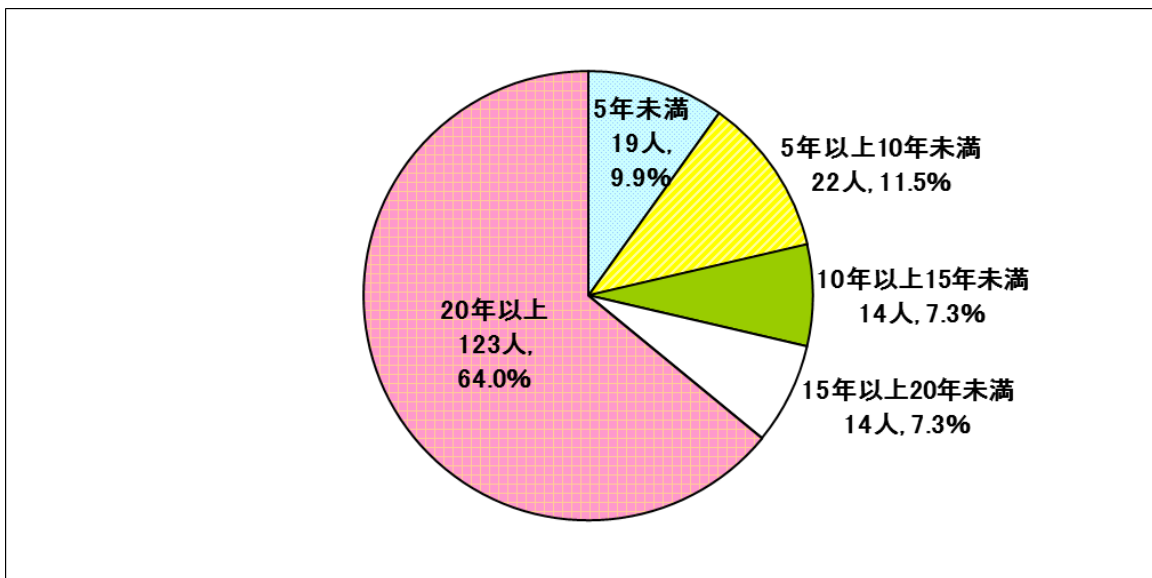
(1) 性別



(2) 年代

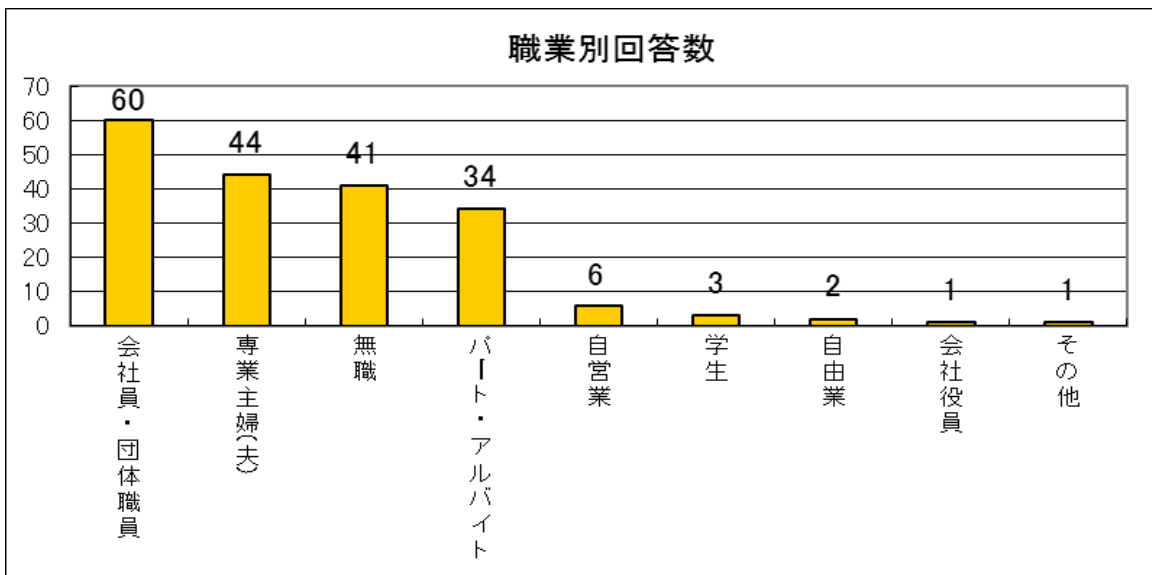


(3) 市内居住歴

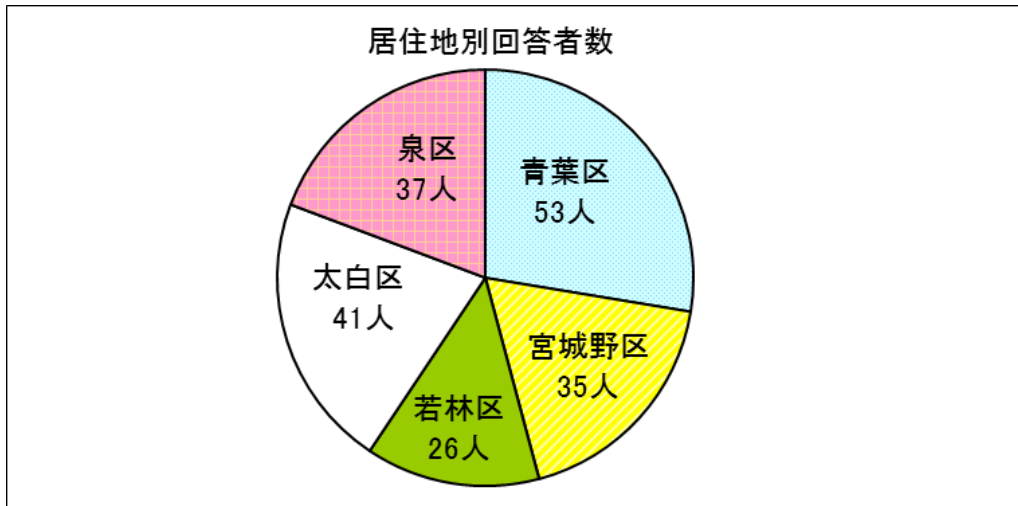


(3) 職業別回答数

「会社員・団体職員」が最も多く、次いで「専業主婦(夫)」、「無職」の順となっている。



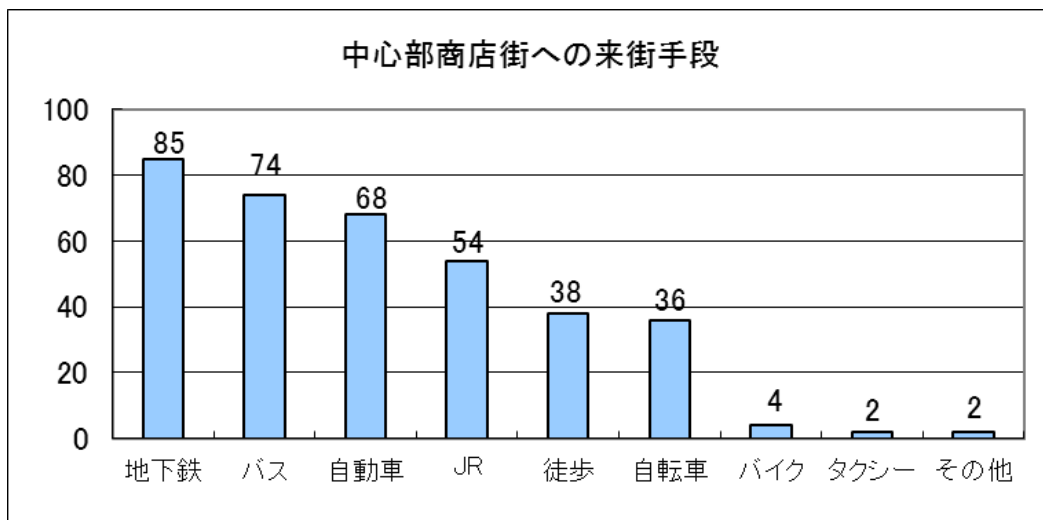
(4) 居住地別回答数



II 中心部商店街に関する調査結果

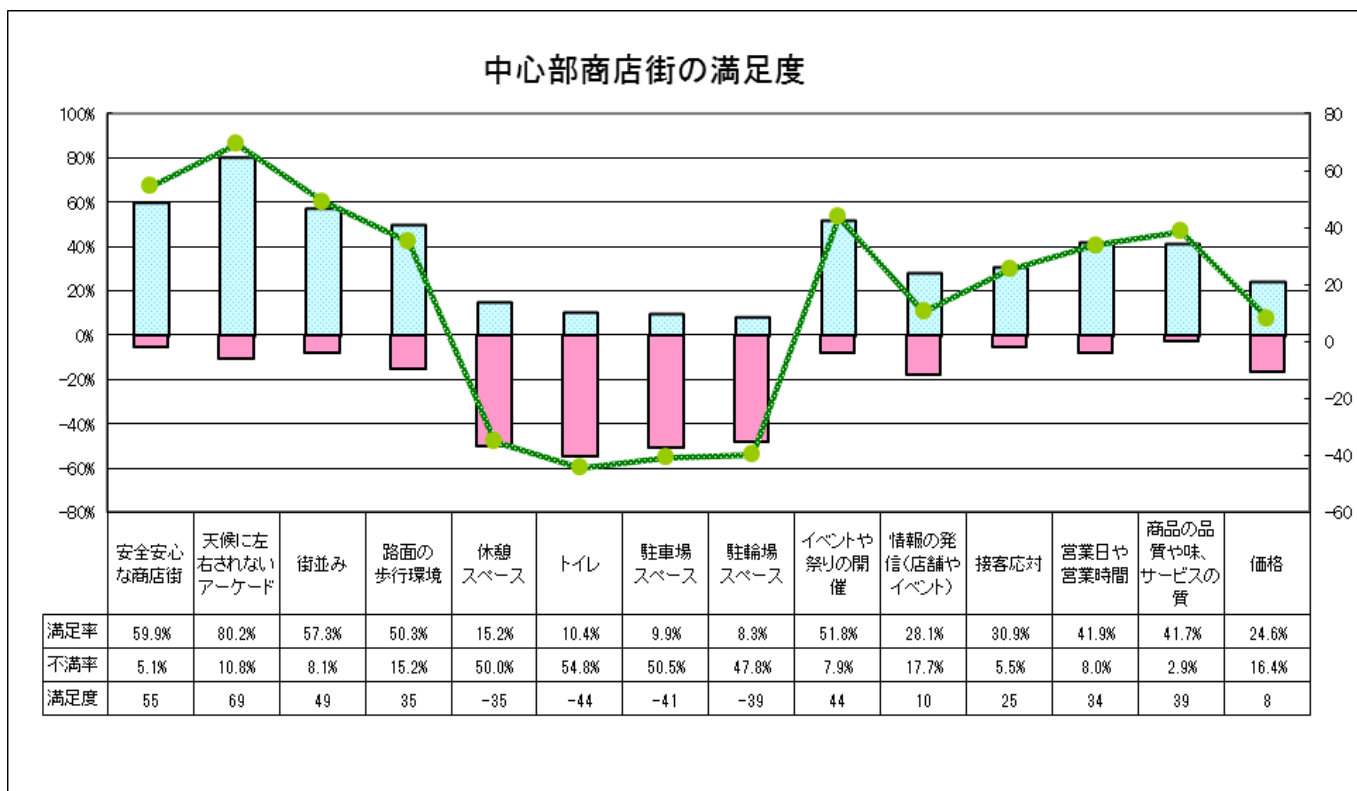
(1) 中心部商店街への来街手段（複数回答）

地下鉄、バス、自動車利用による来街者が多い。



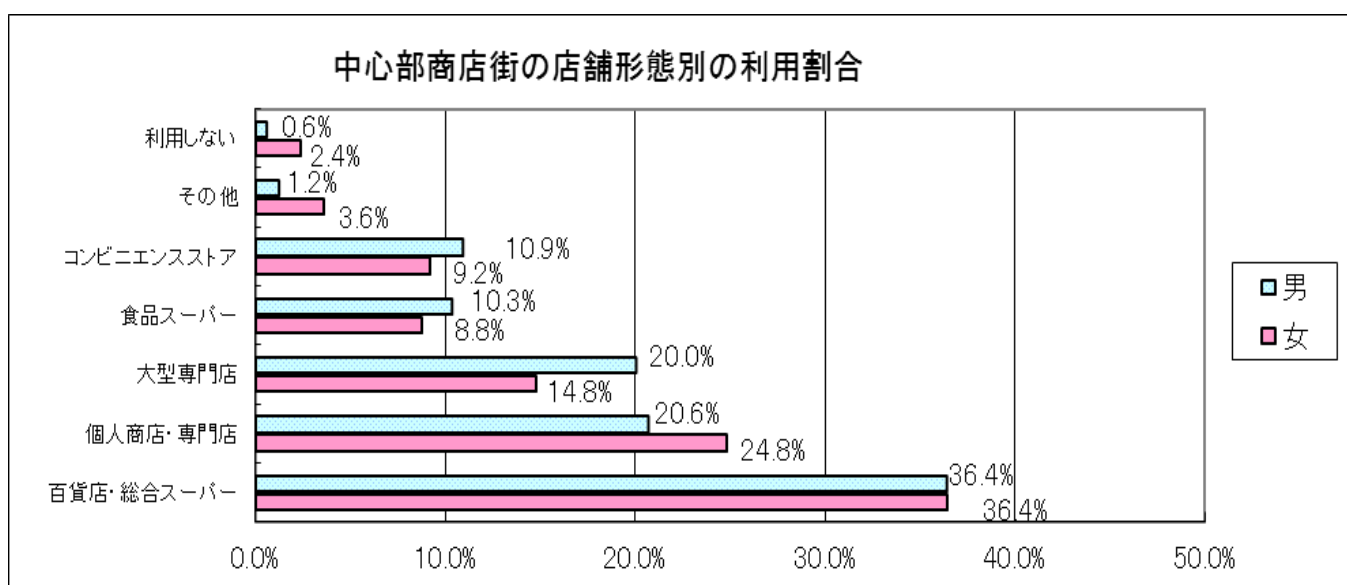
(2) 中心部商店街の満足度

「天候に左右されないアーケード」が最も満足度が高く、次いで「安全安心な商店街」、「路面の歩行環境」と続いており、良好な買い物環境への満足感が伺える。一方で、「トイレ」や「駐車スペース」など来街者が直接利用する設備に対する満足度は低い。



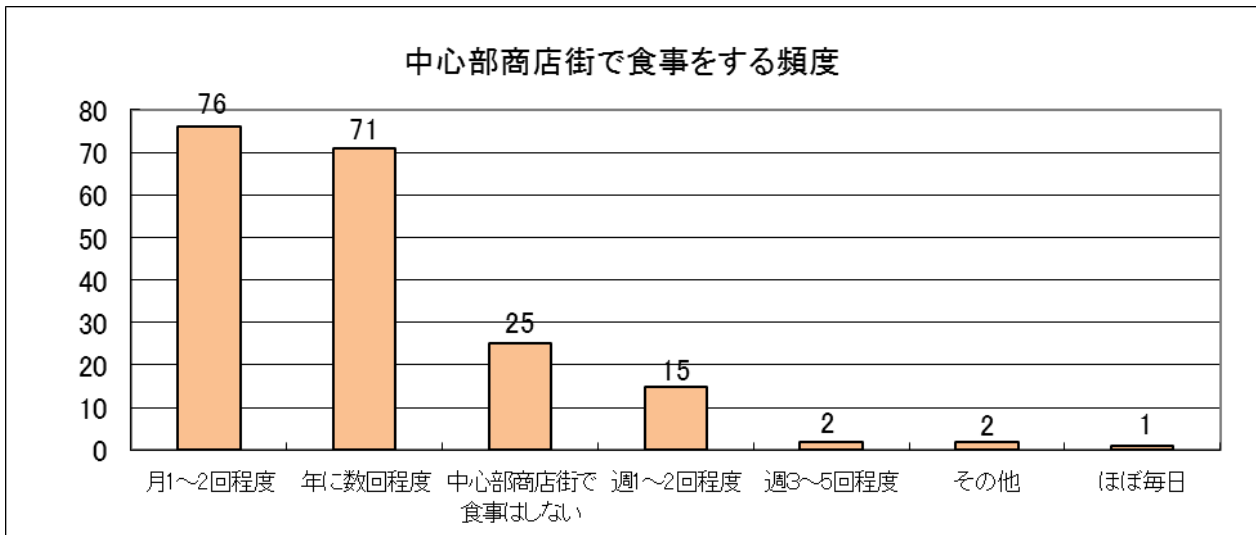
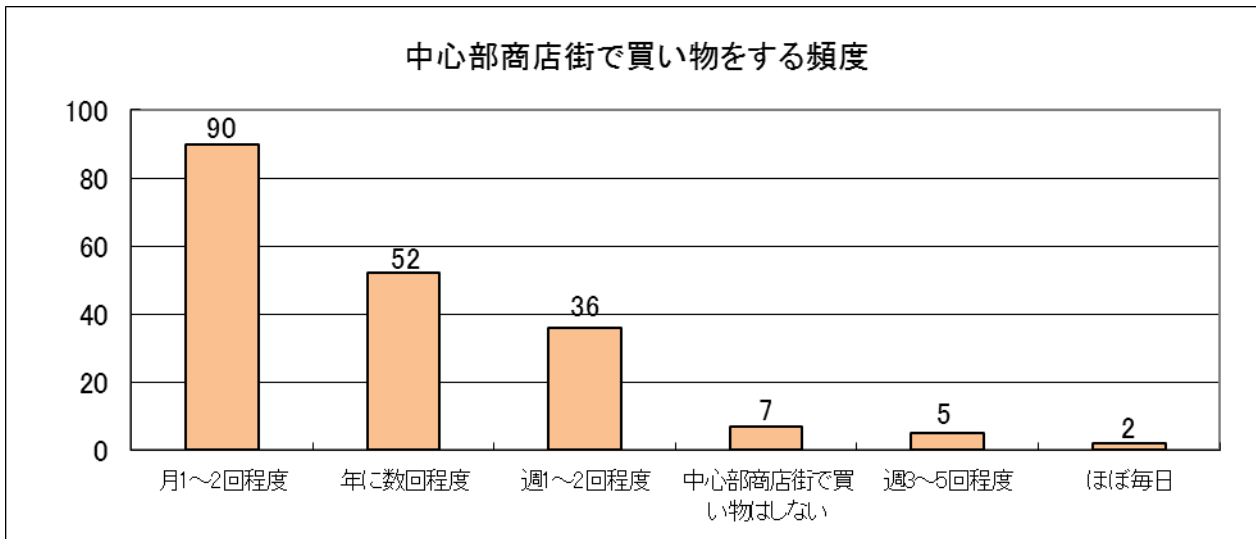
(3) 中心部商店街での利用店舗の形態（複数回答）

男女とも「百貨店・総合スーパー」が最も利用割合が高い。「大型専門店」は女性に比べ男性の割合が特に高く、「個人商店・専門店」は男性に比べ女性の割合が特に高い。



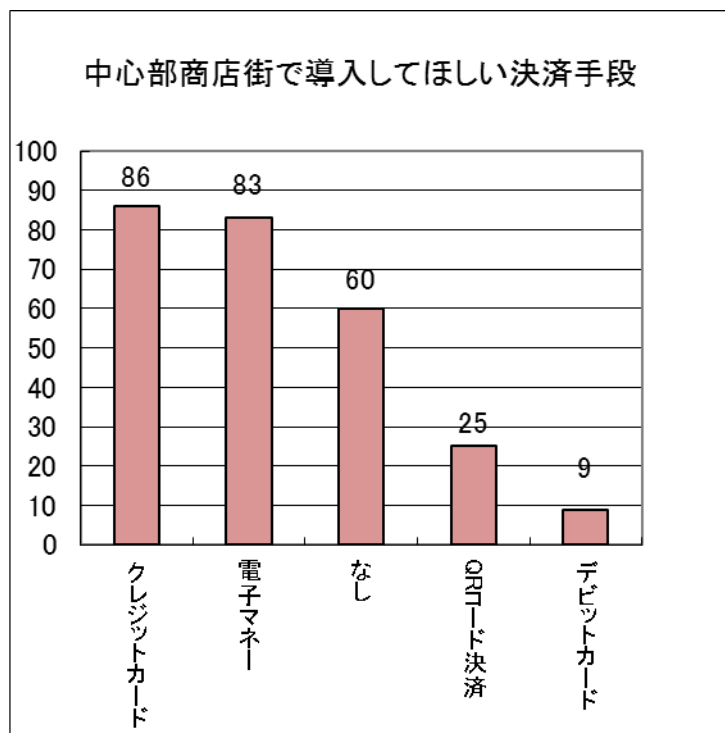
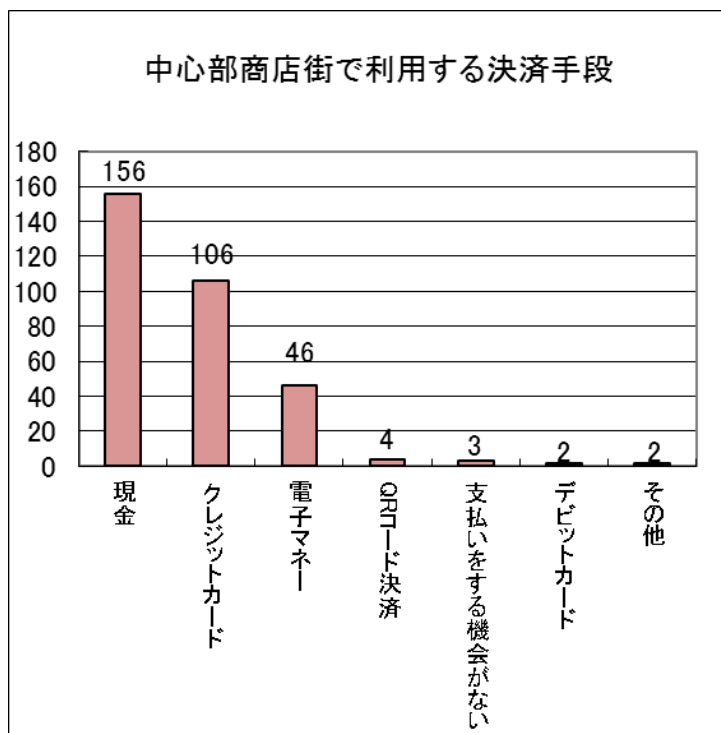
(4) 中心部商店街の利用頻度

買い物、食事とも、「月に1~2回程度」が最も多く、次いで「年に数回程度」と続いている。食事よりも買い物で利用する頻度が高い傾向にある。



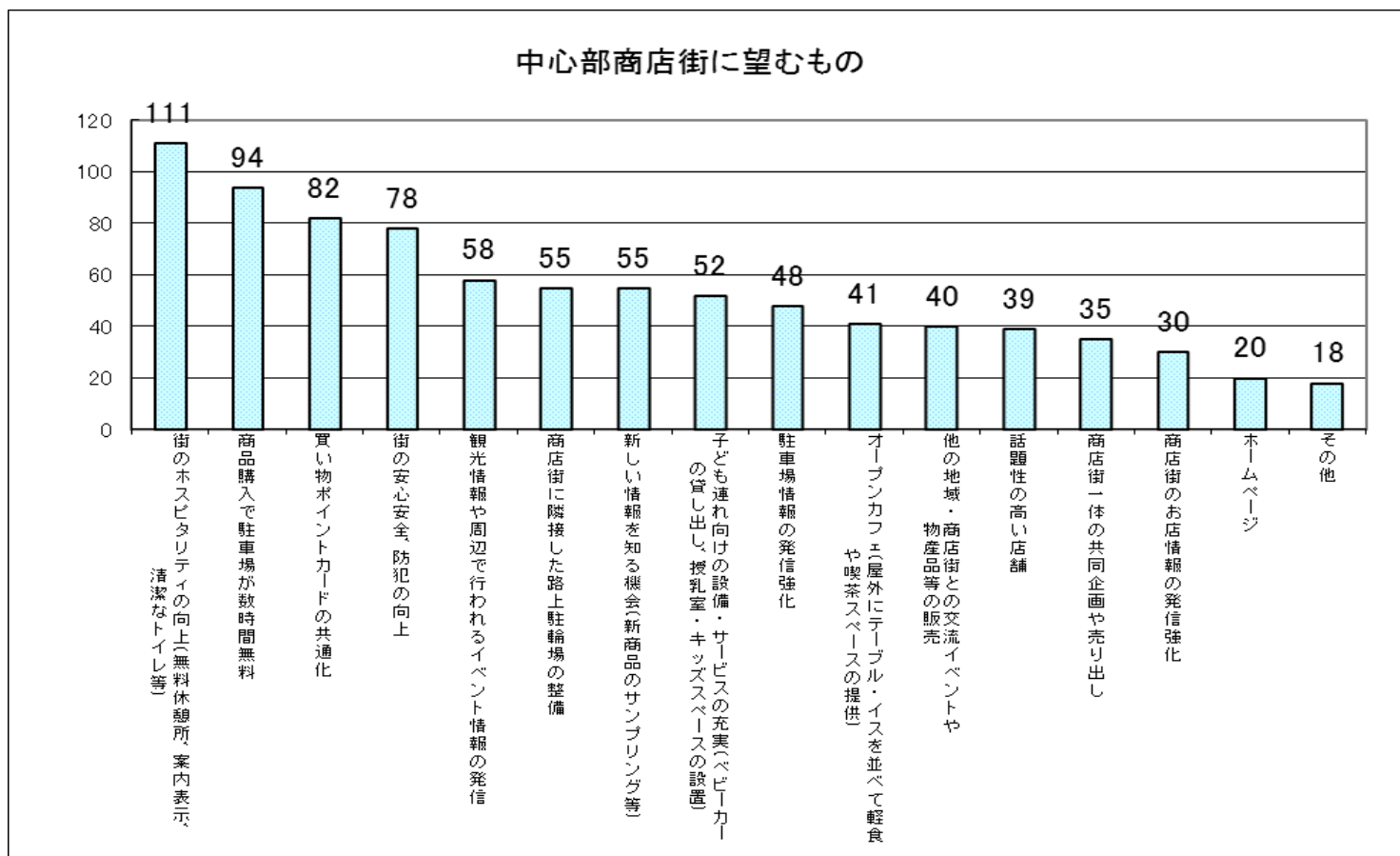
(5) 中心部商店街での決済手段（複数回答）

利用する決済手段は「現金」が最も多く、次いで「クレジットカード」が多く、電子マネーも一定程度利用されている。導入を望む決済手段では、「クレジットカード」に次いで「電子マネー」との回答が多い。QRコード決済も望む声もあり、多様な決済手段の導入が求められている。



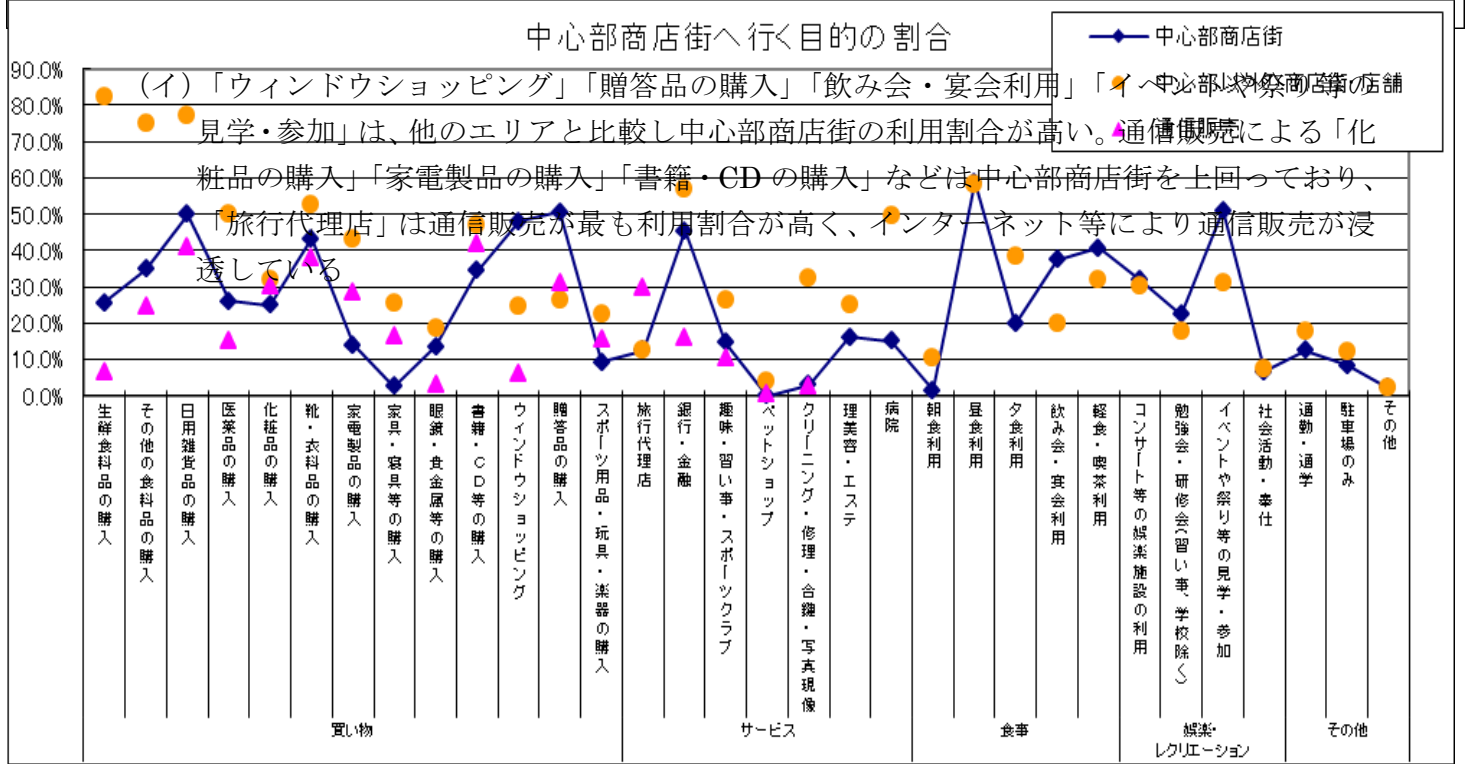
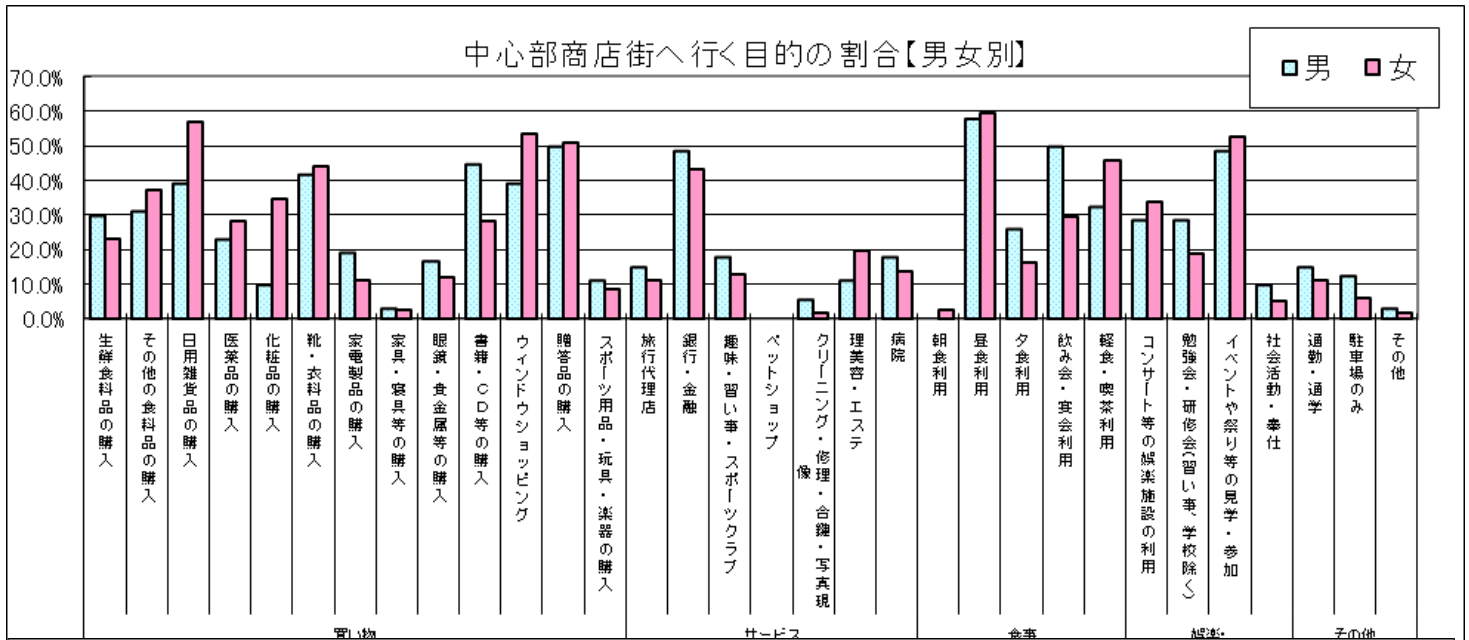
(6) 中心部商店街に望むもの（複数回答）

無料休憩所、案内表示、清潔なトイレ等の「ホスピタリティの向上」が最も多く、「商品購入で駐車場が数時間無料」「買い物ポイントカードの共通化」と続き、利便性向上を望む声が多い。



(7) 中心部商店街へ行く目的 (複数回答)

(ア) 男女とも「昼食利用」が最も割合が高い。男性は「贈答品の購入」、「飲み会・宴会利用」が、女性は「日曜雑貨品の購入」、「ウィンドウショッピング」、「靴・衣料品の購入」の割合が高い。



※通信販売の調査項目は買い物の「生鮮食品の購入」から、サービスの「クリーニング・修理・合鍵・写真現像」まで

